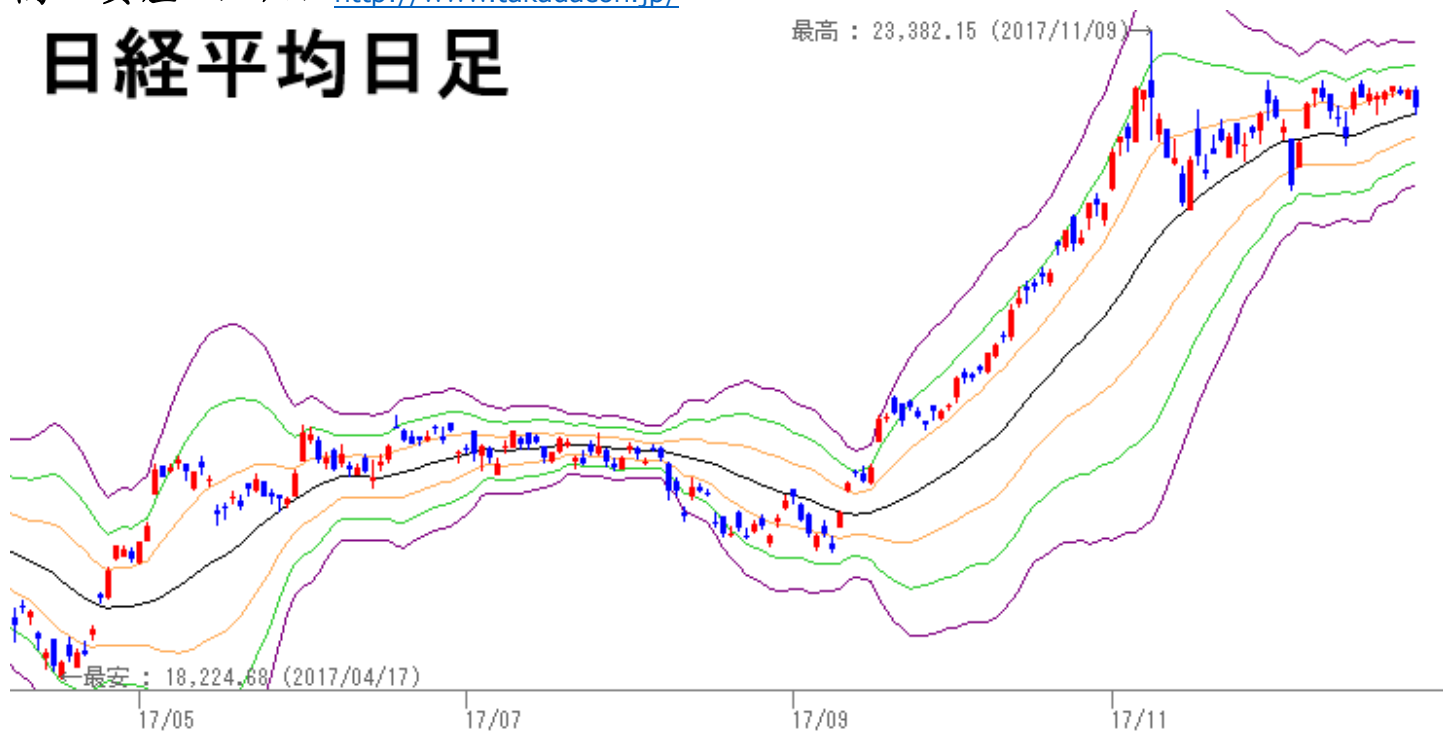


相場分析レポート

2017/12/29 配信

高田資産コンサル <http://www.takadacon.jp/>

日経平均日足



日経平均週足



今後のポイント

・12月28日引け後に発表された投資部門別売買状況の最新データを確認すると海外投資家は12月18日～22日の週は合計1223億円の買い越しであった。内訳は、東証一部、二部、マザーズ、ジャスダック全てが買い越しであった。これで海外投資家は7週連続で買い越した後に（約2兆5000億円の買い越し）、11月13日～17日の週から12月11日～15日の週まで5週連続で売り越し（約1兆円）そして先週は1223億円の買い越しとなった。先物も1708億円の買い越しとなっており、海外投資家のスタンスが再び買いに転じた可能性がある。

・上述の通り、海外投資家が先週から再び日本株を買いに転じた可能性があり、12月29日の重要変化日で安値がつく展開が考えられるため、ここで安値をつけてからの上昇を想定する。チャート形状は日経平均がアセンディングトライアングル、TOPIXは上昇チャネルが形成されており、どちらも上放れの確率の方が高いため、買い戦略を継続する。

・日経平均が23000円の壁をブレイクするのは、1月5日辺りまでにあると想定している。この大納会から大発会の前後は、新年の相場の期待と思惑が反映されやすく、新年の相場の期待が高い場合はどちらかが高くなりやすい傾向がある。したがって、今回の相場は12月28日～29日が安いため、1月4日～5日が高い展開をイメージしている。

・年末年始の売買戦略については、12月29日の変化日が押し目となり、大発会、1月5日は高い展開を想定し、ポジションを維持する。

・今週はマザーズが大きく上昇し、2016年の高値をブレイクした。日経平均が23000円の壁を前に足踏みしていることから、まずはマザーズに買いが入ったと解釈する。今週のマザーズの値動き（太陽線で2016年の高値をブレイク）は、今後の日経平均が23000円を突破する時の値動きの参考にもなると考えられ、今週のマザーズと同様の太陽線か、ギャップアップで23000円の壁を今後ブレイクする展開を想定する。

・TOPIXの日足チャートを見ると、エリオット波動では11月9日高値から12月6日安値までも1か月弱の期間は三角保ち合いを形成したことがはっきりとわかり、そして同時に12月6日に三角保ち合いが完成（終了）、ここから新たな上昇波動が開始したとみるのが最も自然な見方である。昨日まで小幅高ではあるが4日続伸となって

おり、このようにジワジワと今月の高値を更新する展開は、この先で大陽線やギャップアップが起こりやすい経験則がある。この経験則も、エリオット波動では12月6日から新たな上昇波動が開始したのであれば12月15日の押し目は第2波と考えられるため、第3波で大陽線やギャップアップが起こるのは必然といえる。

・日経平均も同じく12月6日に三角保ち合いが完成し、ここから新たな上昇波動が開始したと分析しており、12月6日以降の型はアセンディングトライアングルである。これはふるい落としの下落が入ることで、ふるい落とされる買い方と売ってしまう売り方がいるが、押しが段々小さくなり、三角保ち合いを上放れする局面ではトレンドフォローの買い、ふるい落とされた買い方の買い直し、そして売り方の損切り買い等により、大陽線やギャップアップが起こりやすい型である。

・今月のように上げ下げを繰り返しながらも下値を切り上げる相場や、上値も下値も切り上げる相場に対しての売買戦略は、ストップがつかない限り買いを維持するのが得策である。理想的には上値で利食いし、下値で買えばさらに利益を増やす事は可能であるが、上値で利食いした直後にブレイクアウトして大きく上昇してしまうとその後の上昇を取り損ねてしまうし、ブレイクアウトしたように見せかけて再び下値付近まで下げる場合は相場の上下動に振り回されてしまう可能性がある。しかし、ストップがつかない限り買いを維持していれば下値が切り上がればストップの位置を段階的に切り上げることが可能であり、時間の経過とともにリスクを下げながらブレイクアウトからの本格上昇を待つことができる。